

# 健康診査の事後指導に関する研究

研究協力者 澤田 俊一郎(茨城県)

## I 研究目的並びに方法

健康診査(以下に健診と略す)の事後指導については現在不十分な点が多いので、3か年を目途として地域の事後指導体制を確立することを目的として研究を計画した。初年度は先づ地域の健診の実態を把握し、事後指導に関して如何なる部分にどのような欠陥があるかを明らかにすることを目標とした。このために昭和54年度茨城県で実施された健診の内容について検討を加えるとともに、必要と思われる部分についてはアンケートなどによる調査を実施して問題の分析に当ることとした。なお健診は乳幼児健診を中心としたが、一貫継続指導のためまえから一部妊婦健診をもふくめて対象とした。

## II 研究成果

### 1. 健診の実態について

昭和54年度に茨城県で実施された健診の実績は表1、表2の如くである。すなわち各種健診を総合すると、妊産婦については延74,481人、乳幼児については延131,162人が健診を受けており、茨城県の年間出生数約4万人と言う数字に比すると、健診機会は十分備えられていると考えられる。受診者のうち異常ありとされたものは各健診によって3.2%~16.9%と大きな巾があり、異常者選出のための診断基準が一定していないことも考慮に値すると思われる。事実たとえば1才6か月健診の有所見例を分類して見ると、表3の如く種々雑多な疾病・異常が混じており、事

後指導のあり方を考える際に先づ異常例分類を整理することが必要であろう。生命の保持や発育発達上重要な異常で特に継続指導を欠かせないものは499例(有所見例の22.2%)であり、受診者の1.8%に相当する。多忙な保健婦・医師にとって真に継続指導を要する例をしばってしかも漏らさずに追跡する体制が望ましいことは当然である。

### 2. 事後指導の実態について

早くから健診が行われて実績をもっている3才児健診について、精密検査並びに事後指導の状況を調べた。昭和54年度茨城県の実績を表4に示す。精密検査の結果異常とされたものは262例で受診者の0.8%に当る。その身体的異常は90%以上が専門医で診断されているが、継続指導の有無又は転帰については全て不明である。精神的問題についてはやはり90%以上を児童相談所で取り扱っている。精神衛生センターで直接に扱った例は一例もなかった。児童相談所で扱われた例の事後指導状況を見ると、(表5)昭和50~54年の5年間に県内で処理された例は4088例であるが、面接指導を2回以上受けているものは827例にすぎない。たとえば自閉症について見ても48例中40例が一回の面接指導で終っており、又この5年間に他機関へ紹介された例が皆無であることから、自閉症児は行政機関以外の所で処理されていて地域に埋もれてしまっていることが判明した。この傾向は重症心身障害児をはじめ精神薄弱・肢体不自由・視聴覚言語障害児についても同様に窺

われ、児童相談所では事後指導の機能が十分果されていないと言う結果を得た。

### 3. 地域の障害児発生状況について

障害児の発生状況を正確に把握することは難かしいが、地域で見出された障害児について情報収集調査を行なった。昭和54年度内に管内ではじめて把握された障害児について、保健婦によるケース・レポートの作成を依頼した。対象は県内三保健所（笠間・鉾田・大子）と水戸市であり、管内出生は年約1万である。後遺症を残す障害については77例が記録されたが、その経過について検討した結果、対応に改善の余地があると思われたものは25例であった。これらは表6に示す如く医療の対応不足、健診の対応不足、事後指導などの対応不足に分類される。医療については地域医療整備によって改善する他ないが、健診・事後指導については保健行政側の体制改善によって解決される問題と考えられる。健診で発達おくれが指摘されているながら、5才になって民生委員からの通報で把握された例や3才児健診ではじめて難聴が発見された例などの不幸な症例が少なくない。

### 4. 医療機関の対応状況について

県内で標榜科に小児科をふくめている医師430名に対して病児への対応についてのアンケート調査を行なった。回答を得た200通のまとめを図1、図2に示す。喘息やダウン症・夜尿症については地域医師によってほぼ対応されているが、言葉のおくれや自閉的な子については対応が不十分で、

約25%は児童相談所に、約12%は保健所・幼稚園に依頼をし、約40%は送り先がなく困る又は判らないという結果になる。すなわち小児科標榜医師であってもこのような心理・精神に関する領域については困惑があり、しかも紹介先が用意されていない状況が示された。又児童相談所が頼りにされていることから、あらためてその機能を見直す必要もあると思われる。

## Ⅲ 総 括

以上の研究結果から事後指導体制の整備に関しては次の諸点の解決を目指す必要があると思われる。

1. 各種健診について異常判定基準を明らかにし、事後指導の対象を整理すること。特に障害のこす恐れのあるものについて重点的に指導を徹底させること。
2. 精密検査結果についての情報伝達を正確に行ない得るよう体制を整備すること。又異常の種類によって精密検査実施機関を明白にしておくこと。
3. 妊婦から出生児の就学に至る一貫した継続指導が実施し得るよう体制を整えること。このためには母子保健一貫管理システムに乗せることが望ましい。
4. 事後指導が十分なされているか否かのチェック体制を用意することによって、漏れ者の発生を防止すること。

表1 茨城県 健康診査実績(昭和54年度)

種 別		受診数(延)	異常者数(%)	うち要治療
医療機関委託	妊 婦 (2回)	6,447.5	8,501 (13.2)	8,107
	乳 児 (2回)	3,453.7	1,085 ( 3.2)	745
保健所クリニック	妊 婦	2,493	361 (14.5)	
	産 婦	7,513	167 ( 2.2)	
	乳 児	29,038	2,323 ( 8.0)	
	幼 児	7,623	1,290 (16.9)	
1才6か月児 3才児	(87/92市町村)	27,535	2,283 ( 8.3)	
	(全18保健所)	32,429	4,830 (14.9)	
計	妊産婦	7,448.1	20,564.3	
	乳 児	63,575		
	幼 児	67,587		

表2

1才6か月児健康診査

一般 87市町村実施

対象者数	3,700.5	
受診者数	2,753.5	受診率(74.4%)
疾病異常者	2,283	疾病異常者率(8.3%)

歯科 74市町村実施

対象者数	2,913.8	
受診者数	1,960.7	受診率(67.3%)
疾病異常者	2,186	疾病異常者率(11.1%)

3才児健康診査

1. 対象者数	41,561	
2. 受診者数	32,429	(受診率 78%)
3. 疾病異常者数	4,830	(異常者率 14.9%)
うち 身体的異常	3,942	
精神的異常	888	

3才児歯科健康診査

1. 対象者数	41,562	
2. 受診者数	34,929	(受診率 84.0%)
3. 異常者数	2,439.1	
うち う歯保有者	2,314.3	(う歯保率 66.3%)

表3 1才6か月児健診

有所見例分類

A. 特に継続指導を有するもの	499
B. 継続指導が望ましいもの	1,263
C. 一過性のもの	301
D. 内容不詳のもの	181
計	2,244

A 群 499	B 群 1,263
言葉のおくれ 61	扁桃肥大 311
歩行のおくれ 39	リンパ腺腫大 17
精神発達のおくれ 4	胸郭変形 35
行動異常 10	喘息 55
C・P 6	臍・そけいヘルニア 90
大泉門異常 7	陰のう水腫 16
けいれん 24	湿 疹 511
心異常 67	アトピー皮膚炎 95
斜 視 51	血管腫 34
斜 頸 23	その他皮膚異常 35
四肢異常 66	その他 64
その他 63	
栄養異常 74	
発育不全 4	

表4

精密検査 実施者	受診券 発行数	診 査 数				異 常 者 数			
		身体	精神	計	%	身体	精神	計	%
専 門 医	381	308	4	312	84.9	151	3	154	49.3
児 童 相 談 所	211	1	176	177	83.9	3	86	89	50.2
精神衛生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保 健 所	83	68	30	98	118.0	13	6	19	19.4
計	675	377	210	587	86.9	167	95	262	44.6

表5 児童相談所相談別処理状況

(3相談所合計 昭和50～54年度)

	児童福祉司指導	里親などへ受託	児童福祉施設		国立療養所委託	家庭裁判所送致	他機関へ紹介	面接指導		その他	合計
			収容	通園				二回以上	一回のみ		
養護相談	28	19	139					220	211	6	623
保健相談	6							1	16		23
し体不自由相談			102	1	1			76	244		424
視聴言語相談	10							69	384		463
重症心身障害相談			6		6			28	99		139
精神薄弱相談	4		49	33				112	1111		1309
自閉症相談								8	40		48
教護・触法相談	83		37			5		120	102	1	348
長欠不就学相談	31							95	27		153
性向相談	26							93	231		350
適性相談								3	154		157
しつけ相談	3							2	34		39
その他の相談									12		12
計	191	19	333	34	7	5	0	827	2665	7	4088

表6 異常例内容

医療の対応不足 9例			健診の対応不足 8例			その他の対応不足 8例		
種類	発見時期	備考	種類	発見時期	備考	種類	発見時期	備考
101 髄膜炎	4 週 助産施設で	脳水腫 発見おくれ	103 発達おくれ	10か月 親一訪問で	乳健異常なし	301 上肢奇形	3か月 乳健で	訪問 見落し
201 仮死分娩	出生時 助産施設で	脳性まひ 対応おくれ	703 VSD	10か月 受診で	同上	205 発達おくれ	4 才 知人より通報	未健診 未訪問
304 視覚障害	8か月 訪問で	未熟児 対応おくれ	411 脳性まひ	6か月 親一相談で	同上	421 脳性まひ	8か月 親一受診で	未訪問
416 半身肥大	2か月 親一訪問で	受診2か所 指示なし	501 口蓋裂	6か月 受診で	2か月相談 見落し	607 脳性まひ	11か月 相談で	未訪問
508 発達おくれ	5か月 乳健で	未熟児 対応おくれ	510 脳性まひ	9か月 訪問で	乳健異常なし	203 発達おくれ	5 才 民生委員より 通報	健診の後 未追跡
512 脳性まひ	10か月 乳健で	受診4か所 異常なし	804 発達おくれ	1才6か月 健診で	乳健異常なし	206 難聴	3 才 健診	同上
603 脳性まひ	5か月 受診で	4回転院死亡 対応不明	806 VSD	1才6か月 健診で	受診・乳健 異常なし	503 PDA	3 才 健診	未健診
612 発達おくれ	11か月 相談で	受診3か所 異常なし	903 ダウン症	1才6か月 健診で	同上	604 発達おくれ	3 才 健診	同上
601 発達おくれ	1才6か月 健診で	受診2か所 異常なし						



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



## 1 研究目的並びに方法

健康診査(以下に健診と略す)の事後指導については現在不十分な点が多いので,3 か年を目途として地域の事後指導体制を確立することを目的として研究を計画した。初年度は先づ地域の健診の実態を把握し,事後指導に関して如何なる部分にどのような欠陥があるかを明らかにすることを目標とした。このために昭和 54 年度茨城県で実施された健診の内容について検討を加えるとともに,必要と思われる部分についてはアンケートなどによる調査を実施して問題の分析に当ることとした。なお健診は乳幼児健診を中心としたが,一貫継続指導のたてまえから一部妊婦健診をもふくめて対象とした。